

平成28年度 第2回 栄区傷害サーベイランス分科会 議事要旨

<全体講評>

- ・各分科会とも、それぞれテーマを絞り込んで重点的に取組を展開しており、取組が進んでいるように感じる。また、その都度データを取ってくるという基本的なサイクルが定着しているように見える。
- ・ひとつの地区で総合的にさまざまな問題を考えていく必要もある。町内会が大きなひとつの家族として取組を行っていくような手法も考えられると良い。
- ・イベントが発生しなければ評価できない取組については、スペシャリストのアドバイスを受けながら掘り下げていければ良い。
- ・データの分析と個人情報との兼ね合いについても考えていく必要がある。
- ・現在各分科会で中心となって活動している方々の次を担っていく人材をどのように育成していくかが重要な課題である。
- ・全分科会の取組について、根底には地域づくりという共通の目標があるので、できるだけ分科会横断的に、縦横でつながりや関係が確認できるような進め方をしてほしい。
- ・セーフコミュニティの活動評価は厳しいので、事前指導、本審査を迎えるにあたっては、日常的に専門家と事務局がやり取りする体制が求められると思う。住民の方々と専門家、行政の三者がずっと持続可能な形がかかわっていく必要がある。
- ・栄区セーフコミュニティでは学校での事故をどこの分科会で扱うのか、どこが責任を負って対策するのかについて検討が必要。

<分科会への評価・助言要旨>

① 自殺予防対策分科会

- ・特になし

② こども安全対策分科会

- ・前回の分科会で委員から出た意見を受け止めてもらい、努力してもらえたように感じる。
- ・乳幼児がお風呂で溺れる事故は、頻度が少ないが重症度が高い。2歳～3歳のチェックリストでもお風呂の事故について言及したほうが良い。また、チェックリストの項目の中に、浴室のドアにロックをかけることについて入れることも検討してはどうか。
- ・養育者への啓発の取組について、それぞれの発達度別・項目別に知っている割合と対策を取っている割合を数値化して比較することは良い試み。今後はその数値から重点的に埋め合わせをしていかなければならない項目を拾い出し、より事故予防につながる取組を考える必要がある。
- ・養育者への啓発の取組について、傷害ごとにリスク要因となる項目を絞って対策を立てていくと効果が上がるのではないか。
- ・こどもへの注意喚起の取組について、休憩時間だけでなく、他の時間帯に発生した事故の割合も調べてはどうか。

・リーフレット等は配布するだけでなく、健診等でポイントを解説するなど、知っていることが行動に結びつくための、メカニズムを知ってもらう場を作ることも大切。

③ スポーツ・余暇安全対策分科会

・年代によってスポーツ時のけがの原因が異なっているというのは非常にわかりやすいデータ。10代のけがの原因は技術不足なので、指導者側への講義が必要。中高年のけがの原因は日常の運動不足なので、本人への指導が必要。今後はその違いを生かして、ターゲットを見きわめながら講義の内容を考えていくとより効果的になるのでは。

・運動競技中の事故やけがの原因について調べたアンケートについては、本人からの評価なのか、第三者からの評価なのか気を付けなければならない。本人と第三者の評価は異なることがある。

・「突発的なもの」という事故・けがの原因はセーフコミュニティの考え方にはあまり存在しない。データの解釈の仕方について精査してほしい。

④ 交通安全対策分科会

・高齢者の交通事故への対策として、実技やシミュレーター等を用いて自身の運転技術の低下への気づきを高め、免許返納への足掛かりとして指標にするのもひとつの試みだと思う。

・ヘルメット着用の啓発リーフレットには、13歳未満のこどもについて、自転車乗車時にヘルメット着用が法律で義務づけられていることが明記されているのか。

⑤ 児童虐待予防対策分科会

・取組が非常にわかりやすい形になっており、進んでいるように感じる。子育て支援拠点や民生委員・児童委員の方々が取組が根幹となり、ハイリスクとポピュレーションを相互に関連付けながら取組を展開していることが、わかりやすい形で示されている。

・EPDSで支援が必要な人の割合が微増していることが気になる。ポピュレーションアプローチによって支援が必要な人やリスクのある人が減らせるということとセットで、ハイリスクアプローチの内容の見直しや検討をすることがポイントになる。

⑥ 高齢者安全対策分科会

・転倒予防の取組については、持続可能性が問題。転倒予防体操のリーフレットは配布された後どのように使われるのか。また、効果測定の部分で、継続して転倒予防体操をやっている人の割合の指標などもあると良い。さらに、医学的な体力測定だけでなく、体操をやっている人たちの主観的な評価も導入すると、ただ測定するよりも本人が実感することでやる気が出ることもある。

⑦ 災害安全対策分科会

・栄区の震災時の火災の被害想定が、他の自治体と比較すると少ないように感じる。どのような想定で算出しているのか。火災があちこちで起きるとコントロールできなくなり、大きな問題となる。

⑧ 犯対策分科会

・オレオレ詐欺について、複数回被害に遭われている方がいるかどうかは分かっているのか。一度被害に遭われた方がもう一度被害に遭わないようにすることが非常に重要。悪事を働く人同士は情報共有網が作られているので、1人の方に何件もたかるケースもある。

- ・引きこもっている方にはチラシが届きにくく、危ない。チラシについては街頭での配布のみで、新聞の折り込み等まではやっていないということか。
- ・一人暮らしの高齢者等で、被害に遭ったことを公表していない、どこにも認知されていないケースもあるのではないか。栄警察署ではそこまで想定しているのか確認してほしい。